

「僕が総理大臣になったら日本国民一人ひとりから一円ずつだけもらって君と一億円の結婚式をしよう」これはRADWINPSの「マニフェスト」という曲の歌詞である。この歌を聞いて、見ず知らずの人の幸せのためにお金を払うなんて素敵な話だと感じた。でも、税はこの素敵な話を現実に変えてくれると私は、知っている。今の私なら分かる。なぜなら、税は一。

「税」という言葉を辞書で引いてみると、「国民や企業などの必要経費などの捻出方法として負担を強制する金銭」と示されている。「負担」という言葉が何か心に引っかかり、嫌なイメージが湧いた。

そんなある日、私は急な体調不良により、救急車で運ばれた。すぐに回復し、大事には至らなかった。後にネットを見て、衝撃を受けた。税金で救急車は働いていると。嫌なイメージだった税に救われた気がした。税への関心が湧き、かつての私と今の私の税に対する考えが変わった。私も税で人を救えるか。考えたことがないことを考えた自分がいた。自分が納めた税がどんな経路でどんな形でこの国の役に立っているのか分からない。だから、自分の少ないお小遣いが消えた感じがする。けれど、救急車のサイレンが鳴り、救われる命のためになっているかもしれないと想像をふくらませてみると誇らしくなってくる。自分がヒーローになったような感覚だ。税は社会を繋いで、人々を繋いで、未来を繋ぐ。居心地の良い今も、未来を夢見る今も税のおかげで存在しているのだと思う。「マニフェスト」の歌詞に書いてあるように、日本国民がたった一円だけでも払うだけで、大好きなクラスメイトを、日本のどこかに住む人を、憧れの芸能人を幸せにできるかもしれない。そして、税への理解、税に対する考え方を改めることで、納税を「負担」と思うのではなく、「自慢」と思えるだろう。

私たち、学生は税を納めることよりも、税に支えられていることが多い気がする。税のおかげで大好きな友達と最高に楽しい中学校生活を送っている。だから、感謝を忘れずに過ごしたい。そして、私たちが親世代になったとき、税を納めて、次世代を担う子どもたちに当たり前のように楽しい学校生活を笑って過ごしてほしい。今の私と同じように。

「税」は、ただ手元から消えていってしまうお金ではない。税で未来を生み出す。

なぜなら、税は、

ありふれた日々を守る、幸せの種だから。

未来に幸福の花が咲きますように。